

業界から一言 製造業

食品製造／洋菓子関連は、ほぼ横ばい。中元贈答用の増加に期待。砂糖価格の上昇（一キロ当たり十円高）と原油価格の高騰に伴う包材の値上げがあるが、製品価格が上げられないため、利益が減少。水産物加工は、横ばい。原材料高の影響があり、値上げを検討中。

繊維・同製品／織物は、天候不順、クールビズの影響により売上高が減少。新製品開発のための設備投資が困難。衣服製造は、夏物の受注が全体的に減少傾向であり、好調な企業との格差が拡大。より確実な発注情報により生産するため、短納期多品種小ロット対応が必要。紙・紙加工品／国際バルブ市況が上昇・下降を繰り返しており、年末に向けて再上昇の気配がある。原油高騰の影響で石油製品の再値上げも予測される。景況は悪化というより低迷しており、一段と需要が低迷し、先行き不透明。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、前月同様民間マンション建設が順調に推移したが、前年比微減。今後の建築物件が少ないため、大幅に落ち込みむと予測。砂利採取認可がおり、操業度は上昇気配が濃厚。しかし、二次製品などの兼業者は、割安の他社の砂利による製造を行い、骨材生産業から離脱する動きがある。

宝飾品／消費の減少と地金価格の上昇の影響で、メーカーへの発

注を見合わせているところがあり、七・八月はさらに厳しくなると予測。

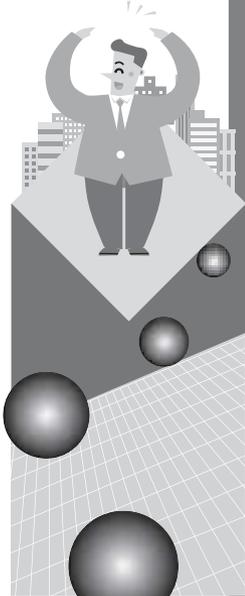
非製造業

小売業／水産物は、品

薄により価格上昇。JAS法により販売時におけるマグロの産地等の表示が義務づけられ、経費が増加するため、中小小売店の経営は益々厳しくなると予測。

寒天類の商品は、テレビの影響で入荷困難。牛・豚・鶏などの全ての食肉の仕入価格が前年比五〜一五%上昇しており、特に牛肉の特定の部位は、一〇倍以上価格のものもある。小売価格の値上げにより消費者が買い控え、消費が落ち込むという悪循環に陥っている。ガソリンスタンドは、六月前半は元売価格値下げにより、一円程度販売価格を値下げしたが、後半は原油高騰と円安により輸入価格が上昇したため、七月は四円程度の値上げ見込みである。適正な利益の確保のためには、さらなる値上げが必要。

サービス業／ホテル・旅館は、愛知万博に観光客が奪われ、業者間の競争が激しくなっている。団体客から家族へと客層の変化に伴い、宴会売上が減少したことにより客質が低下し、トラブルが発生しているところがある。また、インターネット回線設備の改装費が、経営に影響。一方、今後はインターネット予約



山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告
(平成17年6月分)

景況情報

調査対象の50業界のDI値は、製造業においては、「業界の景況」「売上高」は悪化、「収益状況」はやや回復、非製造業においては、「業界の景況」「収益状況」「売上高」ともやや回復、全体としては「業界の景況」「売上高」はやや悪化、「収益状況」はやや回復した。

原油価格高騰の直接・間接の影響が様々な業界に影響を及ぼしており、中小企業はコストの増加分を納入・販売価格等に完全に転嫁できないため、収益幅が縮小し、経営がますます厳しくなっている。また、企業間格差がますます拡大している。

が増加すると予測。反日デモの影響で中国からの観光客は減少しているが、台湾からの予約が増加。

建設業

民間建築物を全国レベルのゼネコンが受注し、県内業者が受注できない状況。加えて、今年度の公共事業の発注がなく、各社は仕事量の確保が困難。型枠工事は、民間需要が一段落し、今後の見込みがない。安値競争の中で県外業者の参入が多く、県内業者の経営が悪化し、小規模の事業者の廃業や休業が増加している。鉄鋼工事は、売上高が増加したが、鋼材仕入価格の増加分を受注単価に上乗せできなかったためであり、純増ではない。四月五月にかけて加工賃が上がったが、受注確保のために六月から単価を下げる傾向にあり、企業間の二極化が進行。管工事は、工事量の減少に伴い、売上高、収益が悪化し、非常に厳しい状況。

運輸業／タクシー業界は、朝昼は高齢者の利用が多いが、中心市街地の空洞化に伴い、夜間の利用は減少している。トラック業界・バス業界ともは燃料調達コスト増が収益を圧迫。

介護・福祉／介護サービスは、六月は季節の変わり目であり、気温が上昇するので、在宅介護者が増加し、売上高は増加するが、人件費も増大するため収益は不変。